

# 富山港線沿線地区

(富山県富山市) 第1回まち交大賞 創意工夫大賞

計画期間 平成16年～20年  
 面積 980ha  
 交付対象事業費 7,053百万円  
 市人口 418,440人(地区内人口 50,000人)

**ポイント** 歴史・文化財と公共交通を活かしたまちづくり

**地区概要** 富山港線沿線には、岩瀬の古い街並みなどの歴史的な文化遺産が数多くあり、また、工場や住宅地が連たんしていることから、路面電車を活かした賑わいのあるまちづくりを進める。

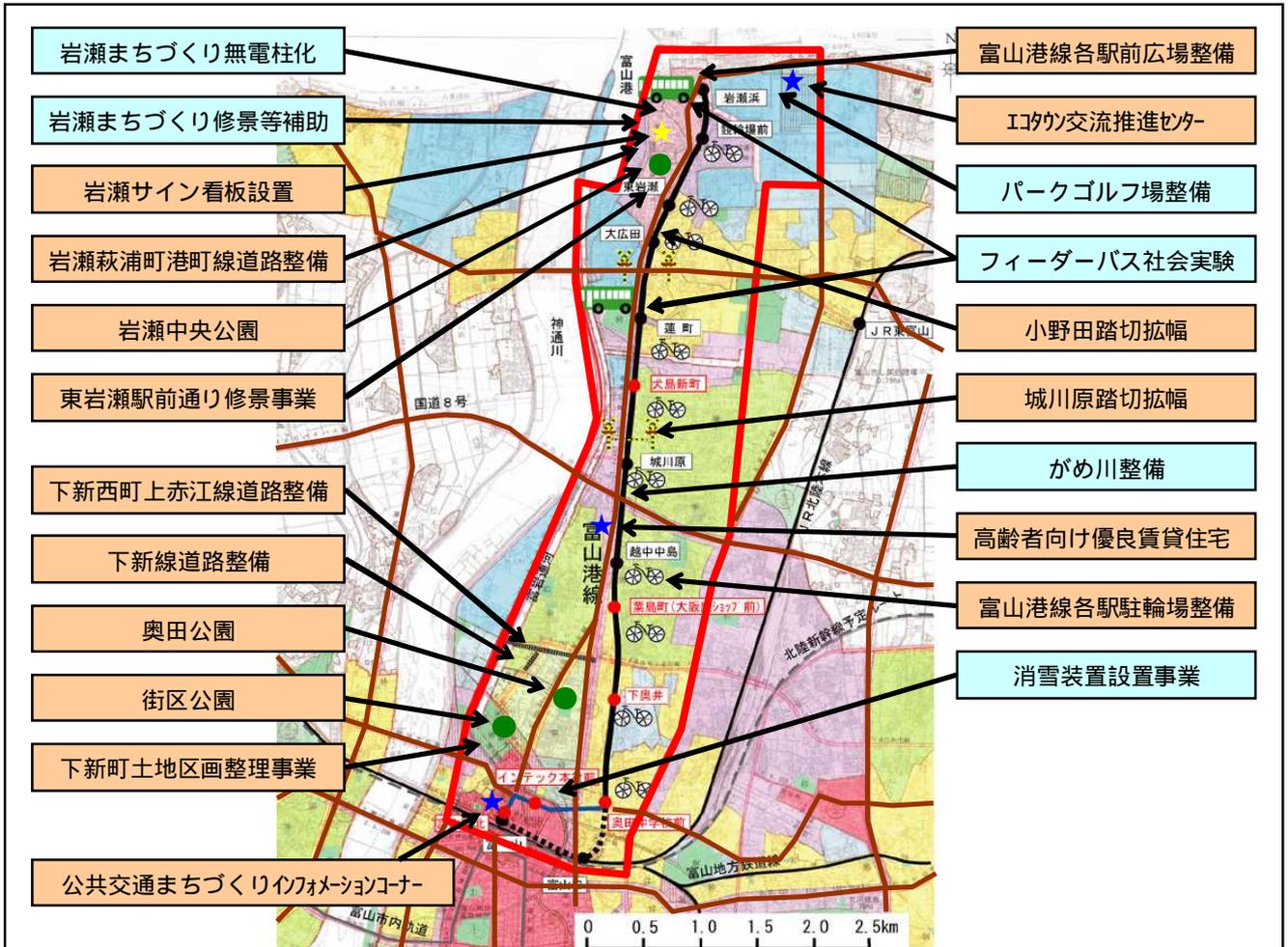
**目標** 富山港線を核とした賑わいのあるまちを再生し、観光資源の活用と沿線住環境の向上を図る。

**指標** 富山港線が路面電車化され、新駅設置や運行頻度が高まるなど利便性が向上するのを契機とし、岩瀬の古い街並みや歴史的な文化遺産を活用して観光客を誘導し、また沿線の都市基盤整備により定住人口の増加を図り、それぞれの相乗効果を期待するものである。

富山港線の乗降者数	3,400人/日 (H14)	4,080人/日 (H20)
観光客入込数	280千人/年 (H14)	336千人/年 (H20)
居住者数	50千人 (H14)	51千人 (H21)

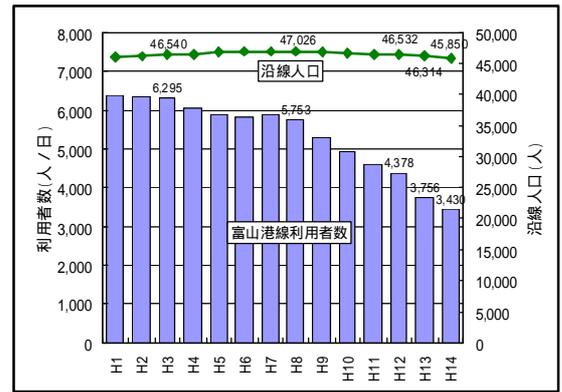
**事業内容** 基幹事業(5,401百万円) 道路(幅員27m～6m、延長5,929m)、公園(5カ所、34,708㎡)、駅前広場整備(11箇所、3,918㎡)、自転車駐車場(11箇所、350台)、岩瀬サイン看板設置(15箇所)、ICT交流推進センター(1箇所、1,163㎡)、公共交通まちづくりインフォメーションコーナー(1カ所、70㎡)

提案事業(1,652百万円) 岩瀬修景事業補助(1式)、フィーダーバス社会実験(2ルート)



## 地区の現況と課題

近年の富山港線の利用者数は減少の一途をたどり、併せて少子高齢化に伴う人口減少傾向が沿線校区でも見られ、平成7年から平成12年の5年間で人口が約3%減少しており、定住人口の増加を促すまちづくりが必要である。また、岩瀬地区は歴史的に価値のある建造物が現存する地区であるが、観光客が回遊して時間消費できるようなルートが無く、その歴史的街並みに調和した街路等の整備の実施が求められている。



沿線人口と富山港線利用者数の推移

## 提案事業の特徴

### 岩瀬まちづくり事業

岩瀬地区は、「岩瀬大町新川町通り町並整備推進協議会」が策定したまちづくりの基本方針のうち、大町・新川通りを中心とした歴史的町並みに調和した街路の整備等を（行政が取り組むべき事項として）実施し、来街者が集まる賑わいのあるまちづくりを進めることとしている。

また、伝統的建物の修景基準を作成し、それに合わせた改修実施者に補助をし、歴史的街並みの保存・再生を図る。

### フィーダーバス社会実験

フィーダーバスによる需要調査とその運行計画を策定する。富山港線の岩瀬浜駅と蓮町駅を基点とし、東西方向にフィーダーバスを運行することにより鉄道の支線的役割を担い、富山港線の利用者増加と公共交通不便地域の解消を図る



国指定重要文化財 北前船回船問屋森家



岩瀬浜駅での結節イメージ

## 計画策定プロセス

### 「富山港線を育てる会」の活動

各校区の自治振興会が中心となった「富山港線を育てる会」という組織が結成されており、富山港線の利用促進や沿線地域のまちづくりについて意見を頂いているところで、今後ともこの会を中心としてまちづくりのあり方を協議していく。



「富山港線を育てる会」の様子

## 富山市長森雅志氏のコメント

市では、少子高齢化時代に入り、これまでの自動車利用を中心とした拡散型の都市から公共交通を活用し都市機能を集約した「コンパクトなまちづくり」が求められています。このことから、富山港線を路面電車化し、新駅の設置や運行頻度を高めるなど、利便性を格段に向上させることを契機として、路面電車やバスなどの公共交通を活用して生活できる環境整備を推進しています。

これに合わせて、まちづくり交付金を活用し、駅前広場や駐輪場の整備、フィーダーバスの導入などの駅アクセスの改善を進めるとともに、沿線での住宅建設の促進や区画整理による緑豊かな住環境の整備、さらには、岩瀬の古い街並みや歴史的文化遺産、豊かな水辺空間を活用した観光客の誘致など、賑わいのあるまちの再生を図っています。